

教 科	科 目 名	単位数	学年	学科またはコース	履 修
福祉	社会福祉基礎	3	2	園芸福祉科	選択

(1) 科目のねらい

科目のねらい	この教科では、「福祉とは」を常に考えながら学習を進めます。各自の育った環境で「福祉観」が異なります。社会の福祉行政のしくみなどを学ぶことで、自分の生活をふり返えり、「社会全体の福祉」について考えます。そのことで、社会福祉の意義や役割について理解を深め、実践しようとする態度を育成します。
使用教材など	社会福祉基礎（実教出版） 社会福祉基礎学習ノート

(2) 年間予定

期	月	時数	学 習 内 容	学習のポイント
一学期	4	7	「社会福祉基礎」を学ぶにあたって 第1編 社会福祉の理念と意義 ①生活と福祉	“福祉”の対象者・不幸な状態について考えましょう。 進行する少子高齢化と人口減少の中で社会福祉が担う役割を考えましょう。
	5	9	②社会福祉の理念 ③人間の尊厳と福祉社会の創造 第2編 社会福祉の歴史と福祉社会の課題	日本国憲法13条・25条に基づいた現代の福祉理念を十分に理解しましょう。 特に我が国の社会福祉政策に影響を及ぼしている北欧諸国の施策（ノーマライゼーションの考え方を活かした障害者福祉施策や高齢者関連施策等）について学びます。
	6	7	①諸国における社会福祉 ②日本における社会福祉	日本の福祉事業の歴史と今後の目指す姿を考察します。
二学期		テ1		
	7	10	第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度 ①社会福祉・社会保障制度の意義と役割	我が国の社会保障制度の意義、役割、範囲を理解し社会保障給付の内訳に関する推移について考えます。具体的には、児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉・生活保護・社会保障制度になります。例えば待機児童・障害者の就労支援・高齢者の地域での生活支援・ホームレスの自立生活支援・公的年金制度など多種・多様な内容となるため、調べ学習が多くなると思います。
	8	2	②子ども家庭福祉	
	9	12	③障害者福祉	
	10	11	④高齢者福祉	
三学期	11	8	⑤生活支援のための公的扶助 ⑥国民生活を支える社会保障制度	福祉はコミュニケーションが大事だと言う人が多いですが言語・非言語・情報機器を活用した方法などについて学習しましょう。また人間関係を構築するための傾聴・受容・共感の姿勢について特に深く学びます。そのことで3年次の学びに繋がります。 地域福祉活動（例、ボランティア・社会福祉協議会・NPO法人など）の広がりについて、各自の居住地の実情を調べます。そしてどのように展開したらよいかレポートにまとめます。
		テ2	介護福祉との連携授業（9月頃 介護技術学習のためにベットでの演習）	
	12	5	第4編 人間関係とコミュニケーション ①コミュニケーションの基礎	
三学期	1	11	②援助における人間関係の形成 ③社会福祉援助活動の概要 第5編 地域福祉の進展と多様な社会的支援制度	
	2	11	①地域福祉の進展と地域の将来 ②多様な社会的支援制度 ③社会福祉の将来と福祉の担い手	
		テ1		

(3) 評価の観点

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
観 点 の 趣 旨	人間に興味関心を持ち、福祉社会の創造と発展のため、福祉の見方考え方を働かせ、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う	現代社会における社会福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、解決する力を養う。	社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。介護技術の習得も併せて学習する。	福祉の見方・考え方を働かせ実践的・体験的な学習を行う。職業人に求められる倫理観を培いながら、地域の課題を解決しようとする力を養う。
主 た る 評 価 方 法	新聞の切り抜き評価 (課題が明確に指摘出来ているか)	新聞の切り抜き評価 (人間の尊厳にかかわるテーマに沿っているか)	実技テスト 行動観察 (介護実習時)	小テスト 学習プリント 定期テスト

(4) 評価項目・評価点など

評価項目・学習にあたって・評価点	
定期テスト 小テスト 実技テスト	定期テストは4回。実技の内容も筆記テストに出題します 特に“生活を支える社会保障制度”については、各章毎に小テストを行います。 定期テストと同等に扱います。 実技テストは授業で行った実技の中から行います。
ノート 学習プリント	ノート：板書事項は、正確に丁寧な字で写しましょう。 補助教材学習ノートは、丁寧な字で記入し、期日までに提出してください。
新聞切り抜き	月1回新聞切り抜きによるレポートを提出してもらいます。 地域の福祉に関することに興味を持って下さい。
授業参加状態	授業中の発問には積極的に、考えて答えましょう。 9月に実施予定の介護実技の授業では、身だしなみからきちんとしましょう。 確かな技術の習得のために、積極的にバディとの練習を行いましょう。